ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成31（2019）年
１月１２日発行
第３１号

夢のふくらむ学校

W 校

W 校では、書き初め授業(初等部３・４年、中高等部)が行われました。日本の学校でも、３学期の始業式の後は、書き初めを行うのが恒例となっています。



教師や保護者ボランティアの指導のもと、集中して取り組んでいます。

教職員に加え、３０名以上の保護者ボランティアの皆さんのご協力を得て、小ジムにテーブルを並べ、汚れないようにシート等で覆い、筆、硯、墨汁、文鎮等必要な用具を準備しました。教師の書き方指導や手本を基に、３校時で約２００人の児童生徒が書き初めを行いました。

書き初めの由来は、平安時代の宮中行事（元旦の朝に汲んだ水で墨を摺り、新年の恵方の方角に向かって詩歌を詠む）だそうです。明治になって学校教育に取り入れられ、現在では①１年間の抱負や目標を定める、②字の上達を祈願するという二つ意味をもっています。保護者の皆様も、子どもの頃「左義長」（どんど焼き）で家の正月飾りと一緒に書き初めを火に投げ入れた経験をお持ちかと思います。高く上がる炎に、字の上達を願い、高い目標を掲げる子どもたちの姿を想像します。保護者ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

ＬＩ校

ＬＩ校でも平成３１年度入園入学受付が始まりました。２週にわたって入園入学受付・スクリーニングを行います。今週は、１１名の園児児童がスクリーニングを受けました。幼児部年中組に入園希望の７名の皆さんは、日本語での集団活動は初めてのお子さんもいたためか、緊張した面持ちでしたが、次第に笑顔も見られるようになり、楽しそうに活動していました。皆さんの入園入学をお待ちしています。



グーちょきパーでなにつくろう♪

ＬＩ校では、保護者会主催の餅つき大会と中高等部のバザーも同時開催されていました。早朝から緻密な計画の基に準備された餅つき大会では、お正月にふさわしい縁起物の飾り付けや勇ましい太鼓の響きの中、大きなかけ声とともに、子どもたちが杵で餅をついていました。つきたての餅を、保護者の皆さんが手早く磯辺巻き、きなこ、あんこの３種類に仕立ててくださり、子どもたちは舌鼓を打っていました。

中高等部のバザーでは、手作りのベーク品、日用品、古本及び募金の呼びかけなどがあり、頑張った成果が昨年比150%増の収益となって現れました。収益金は、保護者会を通して東日本大震災の遺児達が２０才になるまで支援を行う「公益社団法人はたち基金」に寄付されるそうです。



中高等部バザーの様子



よいしょ！のかけ声とともに



プロ顔負けの和太鼓演奏